

図1：精神疾患言説が維持構成される普遍的構造

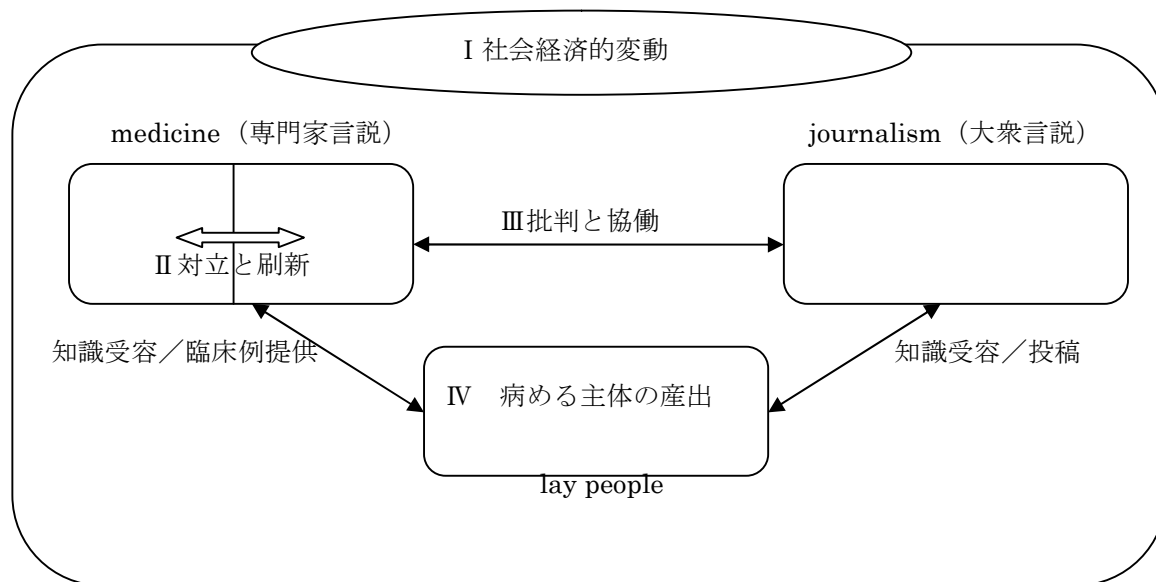


表2：精神疾患言説の構成に関与する要因の比較歴史社会学的分析

		a 神経衰弱	b ヒステリー	c 外傷性神経症	d ノイローゼ
	流行の有無	+	+	-	+
	時期	1905~	1900~		1955~
医学研究	海外	+	+	+	+
	国内	+	+	+	+
	帝大医学部の関与	+	+	-	+
医療体制の状況	開業医による主導的関与	+	-	-	-
	エリート医師による啓蒙	-	+	-	+
	精神医療の変動期	+	+	-	+
経済	高階層の患者	+	±	-	±
	保険診療	-	-	+	+
病気の性質	病因の明確さ	-	-	+	-
	産業化との関連	+	-	+	+
	客観的な症状	-	+	-	-
社会問題化の資源	契機となる事件	+	-	-	-
	危険な患者像	±	+	±	±
	政治的抑制因子	-	-	+	-

\* 表内の記号は、各要因の存在 (+)、不在 (-)、混在 (±) を表す。表内の着色部分が、各事例に共通すると考えられる要因である。